

夏の思い出



けんそう

私はこの地、大久野で生まれ育ち今日に至ります。私の幼少の頃は約四十数戸と少なくのどかな集落でした。川の堤防沿いにはサクラやモミジの木々が植えられ、時季にはとてもきれいなところでした。昔の都道は雑木林の中を通る曲がった道路でした。東に向かって林の中の道を進み通り抜けると、そこには茶店があり、氷の字の旗が風に翻^{ひるがえ}っていました。母にねだりよくかき氷を食べさせてもらったものです。幼き頃の夏の思い出のひとつです。今は三百八十余戸の集落となり、都道も整備され行きかう車も多く喧騒としたところとなりました。

また、夏のある日友人三人と神奈川県にある丹沢に行った時の事です。前日、八王子の友人宅に泊めてもらい、翌朝八王子駅より中央線で新宿へ行き、小田急線に乗り換え秦野駅^{はだの}で下車しました。バスで市街地を抜け登山口である蓑毛地区^{みのげ}へ向かう車窓は、のどかな田園風景が続きとても景色がいいところでした。行き当たりばったりの無計画でしたので、登山口に着きしばらく歩くと辺りが暗くなってしまったのです。夜行は危険なので断念し、近くの農家の納屋をお借りして泊まる事が出来ました。翌朝、けたたましいニワトリの声で目を覚まし、登山を開始しました。丹沢の山は簡単に思っていたのですが、私達三人にはなかなかの難所でありました。二ノ塔、三ノ塔と登って行くのですが頂上^{はだの}の様に見えるそこにたどり着くと目的とする塔ノ岳はまだまだ先でした。精神的にも体力的にも大変な登山でした。これも思い出深い夏のできごとのひとつです。

現在は趣味の野菜作りのほか、週に一回ゲートボールの練習に行っていますが、なかなか上手にはなりません。長年続けてきた詩吟の会へも、少ないメンバーですが、時には大きな声を張り上げ、お茶飲みをしながら、楽しく参加しています。



すざき やすみち
文：須崎 安通 さん（日の出地区）

表紙のことば

新規就農して4年目を迎えた佐藤睦美^{さとう むつみ}さんは、ミニトマト「プチぷよ」をはじめ、タマネギ、長いも、ニンジンなどを栽培しています。管理栄養士の資格を持ち、「子どもに新鮮な野菜を食べさせたい」と思ったことが就農のきっかけです。自ら育てた野菜を食卓に並べることで、食育にもつながりたいとの思いを大切にしながら野菜を育てています。

夫の直寛^{なほひろ}さんはキックボクシングのジムを経営しています。高校の体育教師を経て、プロのキックボクサーとして活躍した経歴を持ちます。休みの日にはトラクターやトラクションを運転し、農作業をサポートしています。静岡県のお茶農家で育った経験も、力強い支えとなっています。

娘のいとさんは、体育や図工、国語が好きで、お父さんが教えるキックボクシングジムに通っています。野菜は何でも好きで、特にミニトマト「プチぷよ」とエダマメがお気に入りです。12歳の愛犬チョコビのお世話も積極的に行っています。

昨年は父娘でキックボクシングの本場・タイを訪れたそうです。「次は家族みんなで行きたいね」と笑顔で話してくれました。



佐藤さんご一家（増戸地区）

左から▶

（夫）直寛さん、（長女）いとさん
（犬）チョコビ、（ご本人）睦美さん